



第65号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール chiho@mg.pikara.ne.jp
責任者 鴨井 智峯

暑中お見舞い申し上げます

高龍寺 院家 鴨井智峯



じゅうじゅうたいもう

弘法大師の代表的な論文に即身成仏義がありますが、その中に「重々帝網なるを即身と名づく」という一節があります。これは縦横の重なり合う糸の結び目が全てしっかりと繋がっていて、それが網の目の様になっている。この意味は私たちに無縁ではなく、多くの方々との縁によって結ばれているということです。

この度、私の長男でもある副住職の婚儀整い、コロナ禍の中ではありますが、細心の注意を払って結婚式を執り行いました。お嫁さんは高知県足摺岬にある四国霊場三十八番札所金剛福寺さんからですが、二人の出会いが正しく重々帝網なるを即身と名づくそのものでございました。この度の縁に「文化時報」という宗教新聞の記者が非常に興味を持ち、物語のような記事を特別に許可を頂き、掲載いたしましたので、ご一読下されれば幸甚です。

今後とも若い二人を宜しく願い申し上げます。

合掌



お彼岸について

副住職 鴨井悠真

「お彼岸の時期になればお墓参りをしましょう、という話をよく聞きますが、どうしてですか？」と聞かれることがございます。

当寺ではお彼岸に合わせて特別な法要を行っているわけではございませんが、希望された方のお家にお参りし、読経させていただいております。よろしければ是非ご連絡ください。

そもそも彼岸というのは仏教用語で、いわゆる「あの世」という意味です。ちなみにですが、この世のことは此岸と呼ばれております。

春分の日や秋分の日がございしますが、それらを中心にした一週間をそれぞれ春、秋の彼岸と呼んでおります。つまり令和三年の場合三月十七日～三月二十三日が春のお彼岸、九月二十日～九月二十六日が秋のお彼岸というわけです。

春分、秋分の日には昼と夜の長さが一緒になるという、一年でも特別な日です。なので、お彼岸の時期にはあの世とこの世の境目が無くなり、故人があの世から帰ってくる、と考えられております。

だからこそお彼岸の時期にはお墓参りし、ご先祖様をお迎えしようというものなのです。

もちろん直接お墓参りできれば一番なのですが、新型コロナウイルスの影響はまだまだ大きく、帰省が難しい方は大勢いらっしゃるかと思います。そういった方は彼岸の時期には是非、お家の仏壇の前で読経してあげてください。

高龍寺施餓鬼法要

8月18日(水)午後6時

※マスク着用でご参拝ください
※無病息災の団扇を差し上げます

